

目的 植物染料による染色で花を用いたものは少ない。豊富な花の色素の染色性をしらべ
る目的で実験をこころみ、本報は、花の色素の粗結晶と、生花の花弁によって絹および
セルロース系繊維(綿ブロード、ろ紙)を染め、これらを各種金属塩類の溶液で媒染を行
い、その発色を相を検討した。

方法 材料試料… 絹羽二重(4双付)、綿ブロード、TOYOろ紙 No.1。花弁…バラ、
ヤグルマギクの花弁と乾燥した花弁。実験方法… (1) 生花の花弁による染色：開花後2
日日前後の花弁を用い、予備試験で最適染色条件を定めてクエン酸で染浴PHをととのえて
室温で5時間以上染色した。(2) 粗結晶の精製法と染色法：バラは新鮮な花弁を真空乾燥
後粉砕し、0.1%塩酸をメタノールで色素を溶解し、エーテルで分離する操作を繰返し、
得られた粗結晶はシアニン純度26.9%で2%0.0.1%でクエン酸で染浴PHを調整して生花
花弁と同時染色した。ヤグルマギクは新鮮な花弁を採取後直ちにアセトンで脱水し乾燥花
弁を粉砕し、蒸留水、エタノールの濃度をコントロールし下ろし液をろ過を繰返し精製し、
得られた粗結晶はシアニン純度6.9%で5.5%0.0.1%でクエン酸で染浴PHを調整してバラと同時
染色した。染液は各種金属塩溶液(2%)で1時間処理し、色相は、X、Y、Z、X、Y、Z、主波長、マンセル
記号を測定し比較を行った。耐光、汗、洗、色、堅ろう度試験も実施した。

結果 生花で染め金属塩処理した試料の色は緑へ青へが多く、粗結晶で染めた場合は花
色に近く色相は深さムラなく染着した。絹は塩化第一錫で濃色に発色し、綿とろ紙は殆ど
同じ色相に染まった。有機酸の金属塩による処理布は色が脱落する傾向が見られた。